

令和4年度 第2回
全国健康保険協会岐阜支部評議会

令和5年度戦略的保険者機能に関する 現状評価・課題・重点施策について

- 保険者機能強化アクションプラン（第5期：2021～2023）

- （3）組織・運営体制関係

- ④本部機能及び本部支部間の連携の強化

戦略的**保険者機能の更なる強化**を着実に実施していくためには、
本部・支部間の更なる連携強化が重要となる。



- **支部ごとの課題を本部・支部で明確に共有し、課題の解決を図る**ため、これまでの情報共有のあり方や予算体系を整理し、本部・支部間の連携強化の方策を実施する。



「**現状評価・課題・重点施策シート**」の運用
（検討結果を令和5年度事業計画に盛り込む）

月	実施内容
9月	<ul style="list-style-type: none">・本部からデータ提供（16日） →支部で「現状評価・課題・重点施策シート」作成開始
10月	<ul style="list-style-type: none">・ 評議会での事前意見聴取・ 「現状評価・課題・重点施策シート」の本部提出期限（26日）
11月	<ul style="list-style-type: none">・ 支部事業計画・KPI・保険者機能強化予算の策定開始・ 支部長ヒヤリング（5支部程度）
12月	<ul style="list-style-type: none">・ 支部事業計画・KPI・保険者機能強化予算案申請
1月	<ul style="list-style-type: none">・ 本部審査/担当者ヒヤリング・ 評議会へ支部事業計画・KPI・保険者機能強化予算案の提示 （意見に基づき適宜修正報告）
2月	<ul style="list-style-type: none">・ 支部事業計画・KPI・保険者機能強化予算案の承認
3月	<ul style="list-style-type: none">・ 評議会へ支部事業計画・KPI・保険者機能強化予算の最終案報告

○課題シート＜支部記載欄＞

	課題 ・現状評価シート等より、他支部との比較や時系列比較を行い、自支部特有の課題を抽出してください。 ・課題は複数記載し、5つ以上ある場合は行を追加してください。
1	◎若年層の医療費が全国平均よりも高い（特に歯科医療費） ・5歳刻み年齢階級では、特に5歳～9歳、10歳～14歳が高い ・診療種別では入院外・歯科が高い。特に歯科は0～19歳で全国平均より高くなっている ・また、全世代を通じた歯科の受診率は全国で1番高く、特に西濃地域が高い
2	◎診療時間外の受診が多い ・加入者1人当たりの受診回数が全国平均より多く、費用がかかっている ・ここ3か年減少傾向ではあるが、未だ全国順位は下位（初診 40位・再診 41位） ・再診での診療時間外受診が多いため、緊急でないケースが含まれると考えられる
3	◎健診時の問診において全国下位の指標（項目）がある ・メタボリックリスク保有者の割合が低いにもかかわらず、運動習慣要改善者の割合が男性、女性ともに全国のなかで下位である ・飲酒習慣要改善者の割合が全国のなかで下位に位置しており、かつ経年で悪化傾向にある ・睡眠で休養が取れていない者の割合が全国のなかで下位に位置しており、かつ急激に悪化傾向である
4	◎ジェネリック医薬品の使用割合が目標に達していない ・R4.5月診療分の実績は79.5%で、国が示す目標の80%に達していない 全国平均（80.6%）を下回っている。また、全国順位は35位となっている ・特定の医療機関の使用割合が低く、地域では西濃・岐阜圏域がネックとなっている ・医薬品の供給不安定により伸び悩んでいる

「地域差指数-1」
を比較(*)

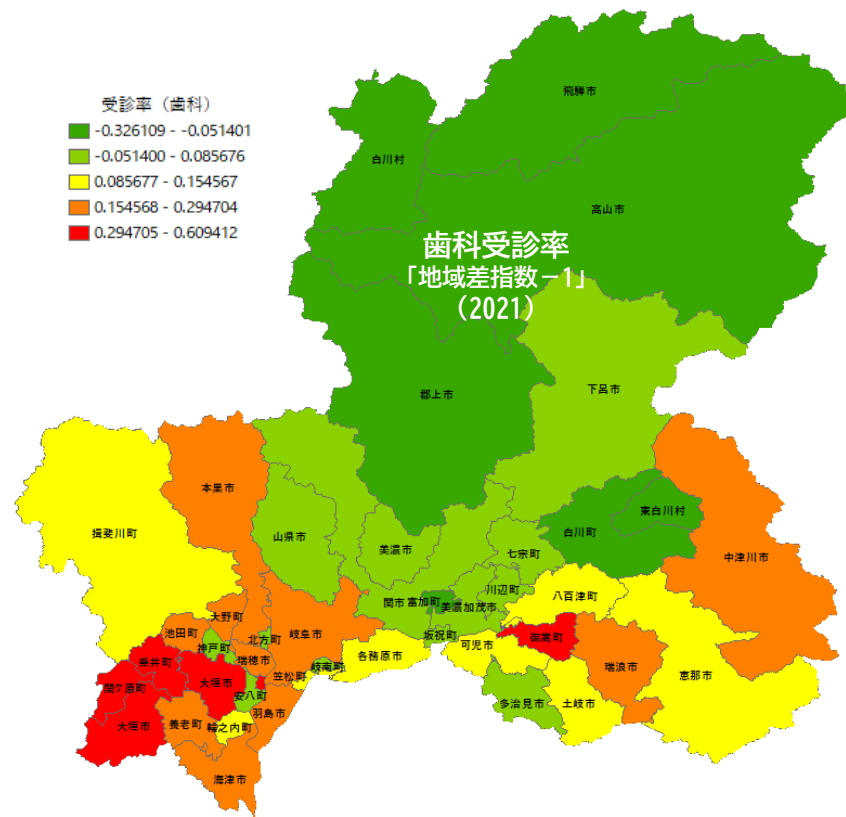
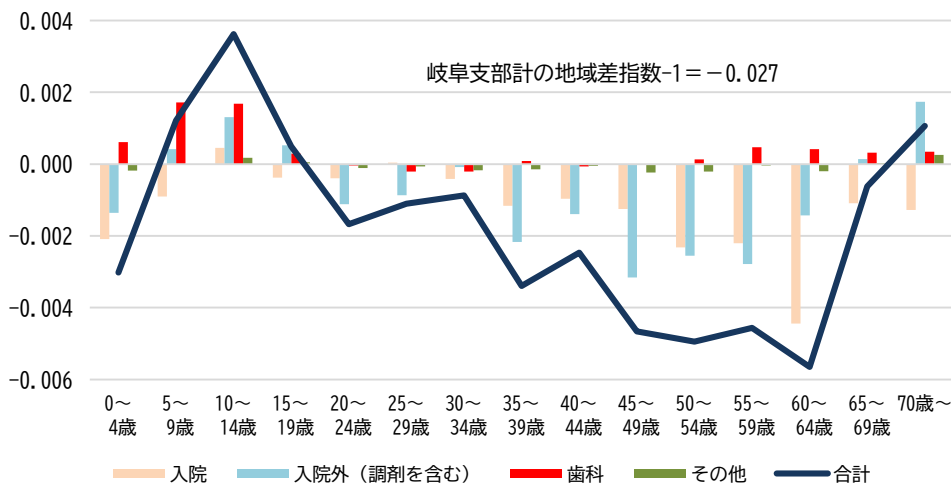
(*) 「地域差指数-1」について・・・全国平均と比較した場合の高低を見ることができます。

地域差指数-1とは、医療費等の地域差を表す指標として、1人当たり医療費等について、年齢調整し、全国平均を「0」として指数化したものであり、0より大きい数値であれば全国平均より高い水準にあり、0より小さい数値であれば全国平均より低い水準にあることを示しています。（協会けんぽ本部 調査分析・研究グループが算出）

① 若年層の医療費が全国平均よりも高い(特に歯科医療費)

現状評価

年齢階級別診療種別医療費 (2020)



課題

- ・5歳刻み年齢階級では、特に5歳～9歳、10歳～14歳が高い。
- ・診療種別では入院外・歯科が高い。特に歯科は0～19歳で全国平均より高くなっている。
- ・また、全世代を通じた**歯科の受診率は全国で1番高く**、特に西濃地域が高い。

① 若年層の医療費が全国平均よりも高い(特に歯科医療費)

施策(案)

■ターゲットを絞り込んだ啓発の実施

- ・子育て世代に広く届く広報を行う一方、特に5~14歳の被扶養者を持つ被保険者（親）あてには、適切な媒体を選択し、複合的な適正受診啓発を行う。
- ・受診の内容を分析し、対策を検討する。
- ・他の重点施策（診療時間外受診・ジェネリック医薬品使用促進）と連動する。

■歯科医療費（受診率）が高いことに対する対策

- ・歯科レセプトデータの分析を行い、診療内容を分析し、過度の受診となっていないか確認する。
- ・岐阜県全体、特に西濃地域で特に高い原因を探る。

■市町村等との連携

- ・福祉医療（乳幼児・こども医療費助成）と関わりが強いテーマであるため、保険者協議会や自治体との効果的な連携を模索する。

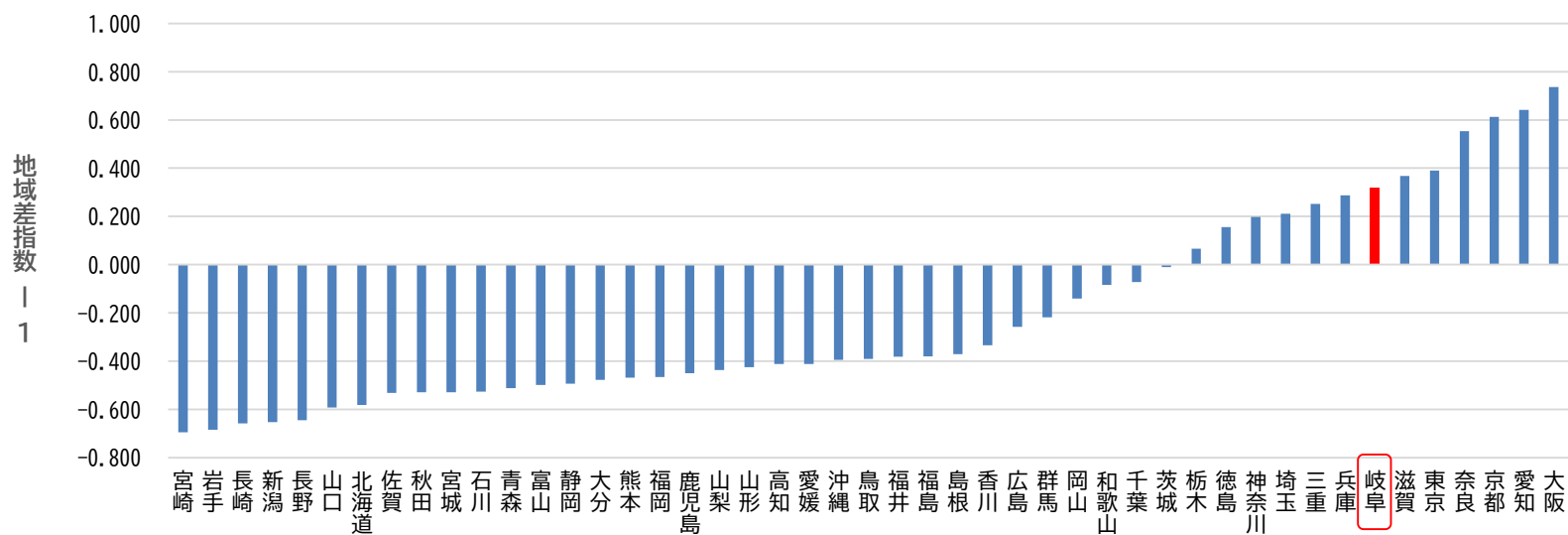
□検証方法

- ・年齢階級別診療種別地域差指数等により検証を行う。
- ・診療内容（レセプトデータ）の分析結果により、この課題に対する取組の必要性を検討する。

② 診療時間外を受診が多い

現状評価

診療時間外受診の加入者1人あたり算定回数（2021）【再診】



課題

- ・ 加入者1人当たりの受診回数が全国平均より多く、費用がかかっている。
- ・ ここ3か年減少傾向ではあるが、未だ全国順位は下位である。（初診 40位・再診 41位）
- ・ 再診での診療時間外受診が多いため、緊急でないケースが含まれると考えられる。

② 診療時間外を受診が多い

施策(案)

■効果的な啓発（広報）の実施

- ・ **年末受診に向けた広報**（ホームページ・広報誌等）
 - ・ #8000（子ども医療電話相談事業）の広報
 - ・ #7119（救急安心センター事業）の広報
- 対象エリア（岐阜市・瑞穂市・山県市・本巣市・北方町）に対して実施する。

■上手な医療のかかり方.jp（厚生労働省）との連動

- ・ 診療時間外受診は**医師の過重労働の一因**となっていることを広報する。

■時間外診療算定者に対する個別通知

- ・ 令和4年度実施結果を検証のうえ、**適正受診に関する個別通知**を送付する。

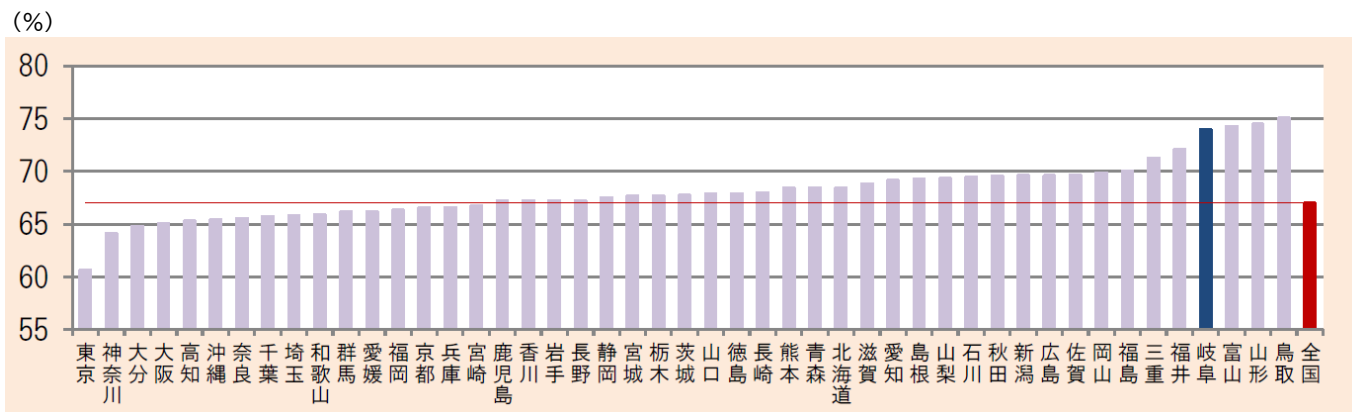
<検証方法>

- ・ 時間外受診の加入者1人当たり算定回数や市町村別医療費の地域差指数の変化により、効果を検証する。
- ・ 個別通知送付者の前後比較を行う。

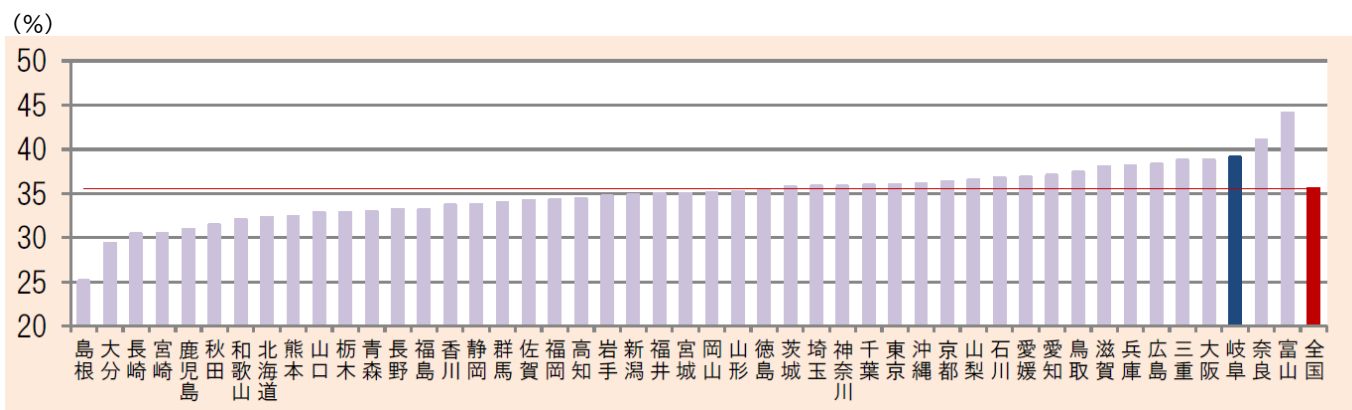
③ 健診時の問診において全国下位の指標(項目)がある

現状評価

運動習慣
要改善者
の割合
(男性)



睡眠で休養が
取れていない者
の割合
(男性)



*2021年度支部別スコアリングレポート（岐阜支部）より抜粋

③ 健診時の問診において全国下位の指標(項目)がある

課題

- ・メタボリックリスク保有者の割合が低いにもかかわらず、**運動習慣要改善者の割合**が男性・女性ともに**全国のなかで下位**である。
- ・飲酒習慣要改善者の割合が全国のなかで下位であり、かつ悪化傾向にある。
- ・**睡眠で休養が取れていない者の割合**が**全国のなかで下位**であり、かつ悪化傾向にある。

施策(案)

■「職場の健康講座」を開催する

- ・ぎふ健康経営認定事業所や健康保険委員設置事業所に対し、「**職場の健康講座**」として運動、飲酒、減塩、禁煙、睡眠の講座を開催する。
- ・講座の開催は、専門の外部業者へ委託する。

■小規模事業所への情報提供

- ・運動や飲酒、食事、睡眠の情報をHPに掲載し、**小規模事業所が自由に活用できる**よう充実させる。

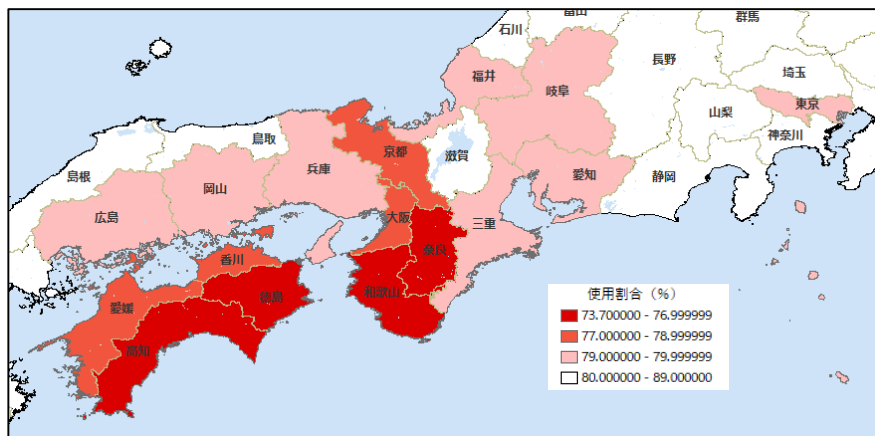
<検証方法>

- ・問診結果の変化について、他の業態との比較や健康講座の実施と未実施、健康保険委員設置の有無や健康宣言の有無により効果を検証する。

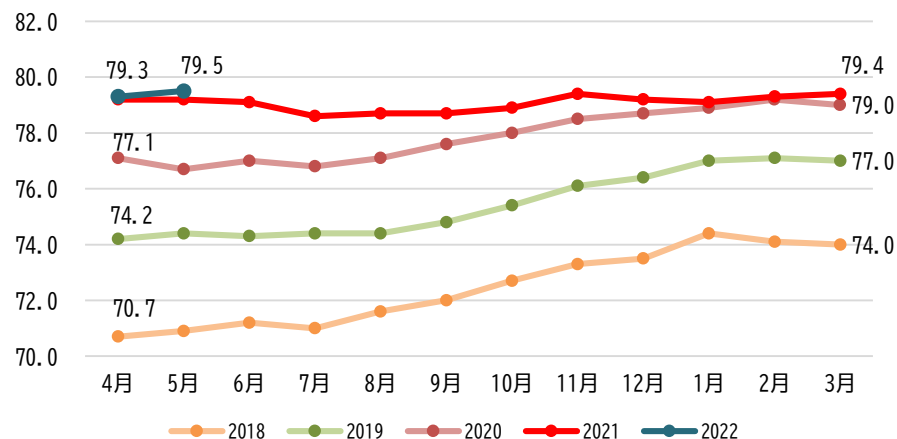
④ ジェネリック医薬品の使用割合が目標に達していない

現状評価

80%未達13支部 (R4.5診療分)



(%) 岐阜支部ジェネリック医薬品使用割合の推移



課題

- ・ R4.5月診療分の実績は79.5%で、国が示す目標の80%に達していない。
- ・ 全国平均 (80.6%) を下回っている。また、全国順位は35位となっている。
- ・ 特定の医療機関の使用割合が低く、地域では西濃・岐阜圏域がネックとなっている。
- ・ 医薬品の供給不安定により伸び悩んでいる。

④ ジェネリック医薬品の使用割合が目標に達していない

施策(案)

■効果的な事業の継続

- ・協会けんぽ広報誌やホームページに加え、**マスメディアを活用した広報**を行う。
- ・ジェネリック軽減可能額通知を送付する。
- ・県内医療機関・薬局に対する情報提供を行う。（各機関ごとのデータが見える化）

■ボトルネック対策

- ・**保険者協議会と連携し、特定の医療機関へ訪問**のうえ使用促進を行う。
- ・使用割合が低い（影響度の高い）**自治体と連携し**、使用促進を行う。
- ・ホームページで自治体ごとの使用割合を公開する。

<検証方法>

- ・協会けんぽ本部が毎月公表する、ジェネリック医薬品使用割合により検証を行う。